

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000606		
法人名	社会福祉法人ノマド福祉会		
事業所名	グループホームはる		
所在地	〒047-0046 小樽市赤岩2丁目21-12 (電話) 0134-24-6024		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月4日	評価確定日	平成21年12月8日

【情報提供票より】 (平成21年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 16年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤	26人, 非常勤 1人, 常勤換算 26人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋一部木造	造り
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	16,000~21,000 円
敷金	有( 円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(11月4日現在)

利用者人数	26名	男性	5名	女性	21名
要介護1	3名	要介護2	12名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.1歳	最低	76歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高村内科医院、なつ胃腸科内科クリニック、済生会小樽病院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、小樽駅からの交通の便が良く来訪しやすい環境である。2階建ての2階部分を当事業所として使用し、1階は同法人が運営する生活支援ハウスとなっている。事業所内は広く明るく開放的で、居心地の良い落ち着いた雰囲気の中、利用者はゆったりと暮らしている。各ユニットから見える中庭の風情や光は、季節の移ろいを感じ、利用者の季節感や五感を刺激している。管理者や職員は利用者に対して、常に尊敬の念を持ちながら、利用者のペースを尊重し、それぞれの思いに寄り沿った支援を心がけ、利用者本位のケアサービスの実践を行っている。職員研修も積極的に行い、職員の質の向上やケアサービスの質の向上に向けて日々取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で出された課題の4項目については、事業所全体で改善に向けて取り組み、地域の住民に気軽に立ち寄ってもらえるよう、東屋を建てるなどの取り組みも行うなどしているが、具体的改善計画は立てておらず、取り組み内容を確認する記録が無い。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、全職員での取り組みを実施している。全職員は自己評価表によって評価を行い、各ユニットごとに話し合い、ユニットのリーダーがまとめている。自己評価及び外部評価で出された課題は事業所の運営とサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年間の事業計画を基に、運営推進会議を概ね2ヶ月に1回開催して、利用者の生活の実情、行事の案内、ボランティア活動、自己評価、外部評価結果などの報告を行っている。意見、質問、要望など率直な意見交換を行い、運営とサービスの質の向上に活かしている。前回の会議では事故報告やレクリエーションなどについて話し合った。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月広報誌を発行し、利用者の日常生活や事業所の実情が伝わるような報告に努めている。家族の来訪時はもとより、来訪できない家族には電話連絡などを通して、意見、要望、不安などを聞き、一人ひとりの希望に沿えるよう事業所全体で取り組み、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内行事の参加や、事業所での盆踊り、ボランティア活動の受け入れ、近隣の保育所との交流などにより、地域との関わりによる利用者の楽しみごととも増えつつある。前回の外部評価を受け、地域住民が気軽に事業所を訪問できるように、東屋を建て、買い物帰りの方が寄ったり、保育所の子供達と焼き芋をするなど、東屋を利用した双方向の地域交流が徐々にできつつある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念であるホスピスケアとコミュニティケアを基本とした、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニット玄関の見やすい場所に掲示されている。全体会議やユニット会議などで理念の意識付けや確認を行い、理念が日々のサービスの提供場面に反映するよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には事業所として入会し、天候や利用者の身体状況を考慮しながら、地域の行事に参加している。また、隣接する保育所と定期的な交流もある。昨年の外部評価結果を受け、地域の住民が気軽に立ち寄ることができるように、今年、玄関前に東屋を建て地元の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を正しく理解し、全職員で自己評価に取り組み、ケアの見直しに反映させてはいるが、外部評価の結果を活かした具体的改善計画などは立てておらず、検証記録が無い。	○	ケアの振り返りや見直しに役立てる意味でも、外部評価で出された課題については、個別に改善計画を立て検証し、記録を残すことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催している。事業所での生活の紹介や行事の案内、避難訓練や自己評価、外部評価結果などの報告を行い、そこで提案された意見、要望、質問などをサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者の運営推進会議への参加はないが、事故報告や運営に関しての相談、それに対する指導を受けており、市とともにサービスの質の向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時や毎月1回発行の広報誌を通して報告している。また、看護師やユニットリーダーは利用者一人ひとりの状態の変化に応じた電話連絡も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議の場で意見、要望、苦情などを聞き、出された内容は即時対応に努め運営に反映させている。現在まで家族からの苦情は特に無い。また、重要事項説明書に内部、外部の苦情相談窓口を記載してある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者、職員は馴染みの職員が対応する重要性を理解し、関係が継続できるよう努めている。やむを得ない職員の離職や異動があった場合は、利用者や家族に報告し、ダメージの軽減や安心感への配慮を心がけている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者は、職員育成の重要性を認識し、内部研修はもちろん外部研修にも参加できる体制を積極的に整えている。研修計画を基に、段階に応じた研修受講の機会を提供し、研修後は報告を行い内容の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議やグループホーム協議会の役員会などに参加し交流している。また、職員は外部研修などを通じて同業者との情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族が見学し、意見、要望、質問などを聞き、事業所の雰囲気に馴染めるように家族と相談しながら工夫をしている。また、安心感が得られるよう、関係づくりの充実に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は支援する側、される側という意識は持たず、常に尊敬の念を忘れずにケアサービスを提供している。利用者の生活歴を振り返り、調理方法、生け花、婦人部の立ち上げなど、できることや得意なことを把握し、ともに学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴や日々の会話、表情などからその真意を推し測り、把握に努めている。意思疎通が難しい利用者には、生活歴や見守りの中からの気づきを基に、家族と話し合いながら、本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者、家族との話し合いの中から希望や要望、意向などを聞いて確認し、主治医の意見なども参考にしながら、カンファレンスで話し合い、介護計画に反映するよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一度、定期的に見直しを行っているが、利用者の状況に変化が認められた場合はその都度見直し、利用者、家族とともに現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、行事参加、外出、通院送迎など必要な支援に柔軟に対応している。管理者は1階の生活支援ハウスの管理者も兼務しており、相互の連携によるサービスの質の向上にも努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する馴染みの医院と連携し、定期受診や訪問診療を受けている。主治医との連携は常勤看護師が中心となっており、職員との情報の共有も密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の理念であるホスピスケアとコミュニティケアを基本とした重度化や終末期に向けた指針を作成し、利用開始時には、利用者及び家族に説明し理解、同意を得られている。また、職員間ではカンファレンスなどで情報、方針の共有化を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は常に利用者本位の目線で、プライドやプライバシーを損ねることの無い対応に心がけている。記録の保管など、情報の取り扱いも適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的流れはあるが、職員の都合を優先するのではなく、利用者を第一に考え、一人ひとりのペース、自己決定や自己選択が損なわれないよう配慮した対応に心がけ、見守りながら利用者本位の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力量に応じて、食事の準備、配膳、下膳、洗い物などを職員とともに行っている。メニューに利用者の好みや反映されるような取り組みや、職員と一緒に外食に出かけるなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。また、献立内容により、お酒を飲まれる利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるが、概ね週2回から3回の入浴を基本に、利用者のその日の体調や気分に合わせて柔軟な支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、日々の身体状況を見守りながら、一人ひとりの趣味や特技、できること、得意なことを把握し、その活動を通して充実感、達成感を持つよう支援している。婦人部を立ち上げ、行事の企画、実行の実践ができたことは、多くの利用者の生活歴を活かした取り組みとなった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	認知症の進行や身体機能が低下している利用者も多く、全体での外出は困難ではあるが、職員は利用者一人ひとりのその日の希望に沿った、散歩、買い物、地域行事への参加等、職員間で話し合いながらの支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は概ね午後8時より午前8時頃まで、防犯上の理由で施錠しているが、日中は施錠していない。感染症が発生した場合は安全確保のため施錠する場合もある。各ユニットの玄関には音のでる物を取り付け、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡網、防災対策マニュアルを作成し、年2回の避難・救出訓練を実施している。緊急時における地域との協力体制については、法人側と町内会で話し合い、協力を得られる体制である。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量、体重等を個々の記録に残し、全職員で情報を共有化し、一人ひとりの身体状況に合わせた適切な支援を行っている。献立のバランスについては、看護師や同法人内の管理栄養士からアドバイスを受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広々と開放的な雰囲気であり、季節に合わせた飾り付けや、居間から見える中庭の風情は、季節感が感じられるよう配慮した造りとなっている。昼食時には音楽を流す等、落ち着いた雰囲気の中で食事が楽しめるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた馴染みの家具や装飾品、仏壇のほか、利用者や家族の要望による冷蔵庫等の持ち込みも支援し、一人ひとりの好みに応じた環境の中で居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。